



令和元年 10 月 31 日

**第 35 回岡山県母性衛生学会で
シンポジウム「HPV ワクチンの今後」を開催
“ガラパゴス？”日本の子宮頸がん対策を考える**

11 月 9 日、第 35 回岡山県母性衛生学会のプログラムの一環として、シンポジウム「HPV ワクチンの今後」（主催：岡山県母性衛生学会、共催：岡山大学大学院保健学研究科など）を岡山大学鹿田キャンパスで開催します。

日本では毎年約 1 万人の女性が子宮頸がんを発症し、そのうち約 3 千人が命を落としています。子宮頸がんの主な原因はヒトパピローマウイルス（HPV）の感染であり、HPV ワクチンを接種することで、子宮頸がんの予防が行われています。

世界的には 9 価（9 種のウイルス型に対応する）の HPV ワクチンが導入され、子宮頸がんの発症が減少に転じている国も見られています。一方、日本では、HPV ワクチンによる副反応が社会問題となって以降、政府は HPV ワクチン接種の積極的な勧奨を差し控えています。このため、HPV ワクチンの接種率は低く、子宮頸がんの発症率も世界の動向と乖離してきています。また、実際に、子どもに接種させるべきかどうか悩まれている親も多いと思います。

本シンポジウムでは、子宮頸がんと HPV ワクチンに関するエビデンスを紹介します。また、自治体としては、全国に先駆けて「子宮頸がん予防」に舵を切った岡山県の取り組みを紹介し、産婦人科医、行政、学校現場、それぞれの立場から議論します。

<概要>

1. 名 称： 第 35 回岡山県母性衛生学会 シンポジウム「HPV ワクチンの今後」
2. 日 程： 2019 年 11 月 9 日（土） 14:45～16:05
3. 主 催 等： 主催：岡山県母性衛生学会
共催：岡山大学大学院保健学研究科、岡山県産婦人科医会
4. 会 場： 岡山大学鹿田キャンパス 基礎医学講義実習棟二階講義室
（岡山市北区鹿田町 2-5-1）
5. 対 象： 医療関係者、母子保健・地域保健関係者、教員・養護教諭、
子育て支援関係者、その他
6. 参 加 費： 第 35 回岡山県母性衛生学会の参加費が
必要です。
（一般 1000 円、学生・研修医 500 円）
※事前申込みは不要です。
7. そ の 他： 無料駐車券をご用意いたします。

<お問い合わせ先>

岡山大学大学院保健学研究科 中塚研究室
第35回 岡山県母性衛生学会会長
教授 中塚幹也
（電話番号）086-235-6538（FAX兼）